

(概 要)

令和3年度（2021年度）第1回元気なふるさとづくり研究会 議事録

1 日 時

令和3年（2021年）7月29日（木）10:00～11:30

2 開催方法

Z o o mを使用したWE B会議

3 出席者

別紙名簿のとおり

4 議 事

- (1) 元気なふるさとづくりに関する令和2年度取組事例集の周知・PRについて（報告）
- (2) 令和3年度 北海道集落实態調査（速報）について
- (3) 令和3年度 集落対策の取組内容とスケジュールについて
- (4) 令和3年度 元気なふるさとづくりミーティングについて

5 主なご意見・ご質問

- (1) 元気なふるさとづくりに関する令和2年度取組事例集の周知・PRについて（報告）

発言なし

- (2) 令和3年度 北海道集落实態調査（速報）について

【井上委員】

- 集落数が増えているとの報告があったが、石塚委員からご指摘があったコンパクトシティの推進により集落数が増えているのか。

【事務局】

- 市町村において集落の定義の精査により増加した。主に長沼町で13集落の増加となった。コンパクトシティ化により増えた可能性もあるため、内容を精査し報告する。

【杉岡委員】

- 生活交通が継続的に課題の第1順位に挙がっており、なおかつ25、6%が生活交通の充実や解決を必要としていることに対して本格的な対応策が期待される。
- 生活交通の解決の仕方は、直営、民間企業や社会福祉協議会へ委託、地域運営組織を含めた住民側、例えば天塩町のようにドライバーの確保といった解決の仕方などあるが、これらに中々馴染まない地域が情報不足も含めて解決できずにそのままになっているのではないか。
- 買い物や病院に行くことも生活交通の柱となっているが、どのような用事を足すために生活交通を確保しているのか、についての補足調査をやっていないのではないか。生活交通の実態と、まだ未着手の自治体における生活交通の課題認識について、道で集約した情報を提供していくことが必要である。検討していただきたい。

【松村委員】

- 限界集落と一時期言われていたが、そう簡単に無くならないとも言える。今回の調査において、消滅した集落があるならば、そこにスポットを当てて、なぜ消滅したのか追跡出来ると良い。
- 生活交通は集落対策の大きなテーマである。道が主催するセミナー等を実施するときのテーマとしてはどうか。
- 地域担当職員について、色々な自治体に話を聞くとあまり上手くいっていないようだ。集落対策に計画的に寄与出来ているとはいえない。地域担当職員の好事例を抽出出来ないだろうか。

【井上委員】

- 長沼町は農協が農事組合を重視した営農を推進している。行政とは違った区分けでの営農の推進である。区数は約 30 だったと思う。そのため、行政が示しているのと実態でズレがあり、集落数の増加の要因となったのではないか。
- 調べていくと、他の地域にも同様な事例があるのではないだろうか。地域の現状を把握する必要はあると考えることから、集落数も重視して調べていただきたい。

【原委員】

- 労働人口が減少すると集落の存続を含め問題になると思う。生産人口から高齢者が除外されているのは現実合っていないと思う。65 歳以上でも現役で働いている人たちが沢山いらっしゃる。
- 今後の分析については、現実を見ることが出来るような、例えば 65 歳以上の就業人口のデータを見ながら分析にあたってほしい。
- 地方における生活交通は、今のような民間企業が収益を得て運営する形では、たち行かないと思う。
- 生活交通を上手くコーディネート出来る人材が地域にいないところに大きな課題があると感じている。
- 一方でコロナ禍において、ライフスタイルのオンライン化が進んでおり、ある過渡期の人口においては、いわゆるデジタルトランスフォーメーションについて行くのは難しいと思うが、過渡期を過ぎると高齢者でも自由に使えるような世代になりうる。このようなことを含めて今後の集落調査の考察を進めていただきたい。

【松村委員】

- 交通に関して、利便性が悪くても移動が簡単になる時代がやってくるとすると、利便性が悪くても集落の価値を見いださないと、集落で生き残るため。夢のある部分である。
- 利便性を除いて集落の価値はなんだろう、という視点がすごく重要になってくる。交通は現状すごく大事だが、集落の良さはなんだろうか、というのを突き詰めていくことが重要になってくると思う。ダメなところ探しばかりでは集落の明日はない。

【鈴木委員】

- 施策をやったことに対し、住民の方々はどう思っているのか、が正直わからない。ただし、聞き方がすごく難しい。参考になるのが住民から要望があったかどうかの有無を調べること。明確に買い物支援をやっている自治体は、要望はあまり住民から挙がらない傾向がある。要望が挙がらないということは、満足していると類推することが出来る。住民に直接アンケートを取るのは極めて難しいが、施策を打ったことによる成果、効果、をどう捉えるか工夫が必要である。
- どういう体制、組織、取組が、要望の有無や住民が良いと思っているのかを吸い上げる方法を検討いただけると良い。
- 自治体職員に項目別に住民の要望が多い、少ない、を 5 段階で聞くだけでも効果として定量化出来るのではないか。
- 交通の関係において、当別町でいくら乗っても定額というタクシーの補助を実施し、かなり好評であった。どのような交通サービスであれば、コロナ禍でも利用していただけるのか、という点を含めて、自治体の人口規模別に異なると思うが、今後コロナを見据えて分析出来るとよいと思う。丁寧に聞いていくことが今後の課題である。

【道総研 牛島研究主幹】

- 委員の方々からご指摘いただいた部分、我々の方でも見させていただきたい。引続きよろしくお願いたします。

(3) 令和3年度 集落対策の取組内容とスケジュールについて

【原委員】

- テーマが非常に重要だと思うが、テーマを募ってどのように設定しようと考えているのか。
- 2グループでやるようだが、テーマを2つに絞るのか。
- 委員も含めてテーマ設定するのか。

【事務局】

- 振興局から各地域課題に応じたテーマを募集したいと考えている。
- 大きなテーマを設定し、テーマに沿った形でアイデアを検討いただく。
- 出てきたテーマについて、ご意見をもらう機会を作りたい。

【松村委員】

- やりっぱなしにならないようにするのが非常に重要で、研究会の委員がフォローアップすることも必要。
- 昨年までの資料と比較し、振興局の名前が多く出てきていると感じる。振興局がアイデアから実施までのフォローアップしていく。アイデアソンを継続的に実施できるような支援をする仕組みが出来ると、振興局の役割が出て良いことだと思う。

(4) 令和3年度 元気なふるさとづくりミーティングについて

【松村委員】

- テーマが決まった時点で、関連する情報を事前に整理した方がよい。現状がどうなっているのか、何が課題なのか、だからこういうことをする。これをテーブルについてからではあまりにも時間が短いと思う。事前の宿題として、現状と課題の整理をやれると、より充実したアイデアソンになると思う。
- もう少し人数を絞って発言の機会を増やした方が良いと思う。例えば4人で3グループが良いのではないか。

【鈴木委員】

- 一般論ではあるが、ワークショップでは5～7人がアイデアが出やすいと言われている。やる気のある人たちであれば少人数の方が良い。また、時間が長い場合は人数が少ないとアイデアが出尽くしてしまうこともあるので、参加者、時間、目的によって、人数については検討した方が良いと思う。

【井上委員】

- 基幹産業の代表の方は参加いただくようにしていただきたい。また、移住者の方も参加いただけると客観的な見方が出来ると思う。